

●梅雨が明けると、季節は夏へ

雨の恵みを受けて、草木もしっかり水分補給完了。晴れの日も増えてきますので、園内散策と行きましょう！

○大賀ハスが最盛期から徐々に・・・

●7月中旬ごろ最盛期を迎える大賀ハス。8月上旬までは花を見ることができますが、徐々に花よりも花托が目立つようになってきます。

4日目に花弁が散った後、残った中心の花托が大きくなって実をつけ、その後枯れていきます。



①大賀ハス



【おねがい】花托を含む園内の草花、果実等の採取は条例で禁止されています。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



②スイレン

○ハス以外の水生植物

●水生植物の代表といえば、スイレン。改良により、その品種は様々なため、総称してスイレンと呼ばれます。ハス池と鯉池の間を流れる③十念寺川を覗くと、水面に浮かぶのは楕円の葉っぱヒルムシロ。ムシロ（筵）とは、もともとゴザなど敷物のことで、葉をヒルの筵に例えてその名がついたそうです。綺麗ではありませんが、つくしのような花穂が顔を出しています。



③ヒルムシロ

○花言葉は「愛の悲しみ」

●ハス池の隣に群生する④ミソハギ。鮮やかな紫色が目を引きまします。名前の由来は、襦みそぎに使われて、ハギに似ていることから。別名ボンバナ、精霊花しょうりょうはなとも呼ばれ、盆花としても良く使われます。愛の悲しみという花言葉は、そこから来ているようです。



④ミソハギ

○夏の野草もいろいろです

●管理棟の南側から古河公方館跡へ向かう坂道の入口で、小さな花を付けるヤブミョウガ。大ぶりでつやのある、ミョウガに似た葉が特徴です。公園の南側、⑦⑧の野草園では、釣り鐘型の花がかわいいホタルブクロが控えめに咲いています。園内の他の場所では、紫色のものもありますので探してみてください。オレンジの花を付けるオニユリは、丈が高いので良く目立ちます。その他、野草はたくさんありますので、てくてく探してみてください。



⑦ホタルブクロ



⑧オニユリ

●神様の使い！？「ハグロトンボ」

・この時期、園内の林の中で見かけるハグロトンボ。平地や低山地で植物が茂り、緩やかな流れのある水辺に生息していますが、羽化したては薄暗い林の中で過ごすそうです。トンボのような直線的で素早い動きではなく、蝶のようにヒラヒラと舞うのが特徴です。所説ありますが、そのヒラヒラが手を合わせて祈る動作に似ているため「神様トンボ」とも呼ばれます。翅は黒く、雄の腹は光沢のあるブルーで鮮やかです。見かけたら幸運が訪れるかもしれませんね。



⑤ハグロトンボ



●夏に向かって動植物は生命力にあふれています。公園散策でその自然の力を感しましょう！